

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100329		
法人名	有限会社 ぬぐまるの家		
事業所名	グループホーム ぬぐまるの家		
所在地	盛岡市北山1丁目16番15号		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	平成28年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390100329-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390100329-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年1月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業者側の都合や介助者の都合にならないように、利用者一人一人のペースで、個々のやりたい事、できる事を大切にして共に生活をしています。  
新たに、「同じ時を過ごし、心通わせ、笑顔あふれる家庭を創る」という事業所理念を作り、それに沿った利用者や家族との関わりを目指しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所の行動指針「ゆっくり・楽しく・一緒に」や新たな「同じ時を過ごし、心通わせ、笑顔あふれる家庭を創る」理念が、日々の介護に具現化されていることが、職員の行動から窺われる。  
・思いや意向の把握について、利用者のプライバシーに配慮し、独りの聞き取りの時間を工夫している。  
・「食事を楽しむこと」は、利用者と職員は同じテーブルで一緒に調理した物を食し、昼食時食べ終わっても、1時までにはゆっくりテーブルに座っていることを実施している。  
・介護計画は、チームで話し合い、本人の意向に沿った適切な目標を設定し、具体的なサービス内容を作成している。  
・地域との交流については、推進会議の委員でもある自治会長が、認知症について自治会で学ぶ会を開催し、事業所への理解を深める等、事業所の存在が意義あるものとなっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	行動指針を掲げ、常に目に入るようにし、職員全員に共有している。また、新たに事業所の理念を作り、共有し、実践している。	事業所の行動指針「ゆっくり・楽しく・一緒に」を、職員の目につく場所に掲示し、常に意識して関わる事としている。できることをできるように、(役割を)奪ってしまわないことを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方のお庭を見せてもらったり、お花を頂いたお礼に手作りのおやつを持って行ったりしている。近くの保育園児との交流も行っているが、日常的、継続的にとはいかないため、今後はもっと交流を深めていきたい。	自治会に加入し、会の行事に参加している。近所のお家から、花を頂き、お礼に手作りのおやつを持って行ったり、交流を図っている。介護の実習生を受け入れている。自治会長(推進会議委員)が、自治会で認知症を学ぶ会を開いたり、事業所の存在が意義あるものとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に相談を受けた場合、認知症の方の理解や支援方法を分かりやすくアドバイス出来るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや、サービスの状況、イベント等を報告し、会議の中で出た意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、1階の小規模多機能と合同で開催している。今年度は、警察の方をお呼びし、徘徊の登録制度について話して頂いた。家族の同意を得て登録した方もいる。会議の議事録は、事業所のホームページに掲載している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村の方にも出席していたり、情報交換や意見をいただいている。	運営推進会議を通じ、市や包括支援センターから、指導・助言を得ている。また、法改正等について、電話で助言を頂くこともある。時に、更新手続き等、利用者も一緒に市の窓口に出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体と事業所内で身体拘束についての研修を行い、どのような事が身体拘束に当たるのか等を理解し、職員全体で共有し、実践している。	身体拘束について、法人全体や事業所内で研修している。利用者の行動を予測した徘徊分布図を作成し、法人の全事業所で共有している。ホームは2階に在り、無断外出は1階の職員が気付き、防いでいる。転倒のリスクが高い方は、本人と話し合い、夜間だけセンサーを使用している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームめぐまるの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社の全体会議等で研修の場を設け、知識を得たり、再確認をし、虐待のないケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人のいる利用者様が入居されたことで、制度について学ぶ機会を持つ事が出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に不安や疑問等が残らないように説明をすることで、理解、納得していただけるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族からの意見や要望を把握するための意見箱といったものは設置していないが、家族の訪問時に利用者の健康状態や日頃の様子を伝え、意見や要望を聞くように努めている。	利用者とは、日々の会話から意見や要望を聞き取り、業務に活かしている。家族とは、推進会議で話された事や面会時に情報を得ている。月1回、本人の生活や健康状態を手紙で知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、法人の全体会議を行い、情報交換をしている。また、毎月、事業所内会議を行い、運営についてや業務改善についての話し合いをしている。	月1回事業所の会議を行い、利用者の心身の変化や職員の言葉遣いや態度の気付きについて話し合い、対応を検討している。また、管理者は、年2回職員が事前に記入した自己評価票を基に、話し合いをしている。必要な事柄は、法人の全体会議に提案している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、自己評価と上司評価、個人面談を実施し、職員のやりがいや目標を確認している。また、特別ケア手当を設け、各自が向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議の場に外部講師を招き、社内研修を行ったり、外部での研修にも積極的に参加する機会を持てるようにしている。また、内部評価(アセッサー)の導入で、職員の技術面の評価と指導を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の研修への参加や、他施設からの実習の受け入れ、合同研修会の開催等を開催し、交流を持てるようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話を聞きながら、安心して生活できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの話を聞き、要望があればその都度傾聴し、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を伺いながら、サービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の役割を大切にし、利用者のできる事を職員が奪ってしまわないようにしている。知恵や知識を利用者がら教えていただき、生活の中に活かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が受診の際に付き添ってくれたり、好きな食べ物や季節に合った洋服等を持参してくれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚が面会に来てくれているが、馴染みの人や場所との関係する機会がなかなか作ることができなかった。	昔住んでいた所や思い出の場所、友達等を家族に聞き、関係づくりの支援を考えている。受診を兼ねて家族と外食したり、法事に参加している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が他の利用者の手を引いて歩いたり、居室を訪れて会話する姿が見られている。どうしてもトラブルになってしまう利用者の方には、職員が間に入り、関係がうまくいくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した家族との関係は途切れてしまっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が本音で話せるような環境作りに努め、要望や意向を伺っている。	利用者は、午後、居室で休まれるので、遊びにきましたという感覚で、居室を訪れ、お話を聞いたり、畳の寛ぎスペースに一人で居る時には声がけし、意向や希望の把握に努めている。また、入浴や排泄介助時に、本音や意向が語られることが多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・親戚から話を聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りやコミュニケーションを通して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化があった時はもちろん、ない時でも定期的に情報を共有して話し合い、介護計画に活かしている。	利用者担当制にしている。日々の関わりや家族からの情報で、思いや意向を把握し、見直しの1ヶ月前ぐらいに評価を行い、会議で職員の意見を聞き、計画作成担当者が、介護計画を作成している。家族に説明・了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や事業所内会議で情報を共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に対応できるように考え、本人・家族にとって最善のサービスを提供できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの保育園へ出向いたり、スーパーへ買い物へ行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に家族が付き添いで受診している。往診を依頼している利用者もいる。また、緊急時は事業所指定の医療機関と連携を取り対応できるようにしている。	かかりつけ医の受診は、家族介助が原則であるが、都合がつかない場合は、職員が対応している。訪問診療や往診対応のかかりつけ医の方もいる。緊急時は、事業所の協力医との連携が来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職に報告・相談・指導を受けながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報交換をし、安心して治療に専念できるようにしている。また、看護サマリーををいただいて、本人とご家族の意向を聞き、退院後も安心して生活出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、終末期ケア対応方針を作成し、職員全体に周知している。また、本人及び家族から、事前確認書にて要望を伺い、不安な事等はその都度話し合いを持っている。看取りについての研修への参加をしている。	入居時、本人及び家族に要望を確認している。「デスクンファレンス」を実施している。訪問看護師に、終末期の経過に応じた指導をして頂き、亡くなられた後は、職員全体で、その方の思い出を語り合う時間を設定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議の場や、事業所内にて研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、小規模多機能施設と合同で避難訓練を実施している。地域の方との協力体制は運営推進会議にて話し合いは行っているが、実際に訓練への参加はなされていない。	階下の小規模多機能事業所と合同で、年2回避難訓練を実施している。夏期には、火災想定訓練を実施した。年度内に、消防署立会の訓練を予定しており、隣人(推進会議の委員でもある)の協力をお願いしたいと考えている。	夜間は、夜勤専門員が勤務しており、日勤帯の職員も含め、夜間の訓練実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、個々の人間として対応している。事業所内で、モラルについての研修を行っている。	モラルについて、法人の全体会議で外部講師による研修や事業所での研修を行っている。また、不適切な対応には、職員同士、適時注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいのかを聞き、自己決定ができるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お茶の時間や食事などの声掛けはするが、休んでいるのを無理に起こしたり、強制したりはせずに、利用者一人一人のペースに合わせて生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は、本人が好きな色や柄の洋服を一緒に選んでいる。理美容は、2か月に1回事業所に来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	糠漬けを一緒に作ったり、調理の下ごしらえや盛り付け、片付け等を一緒にしている。献立を書いたいただき、壁に貼り付け何を食べるのかを分かるようにしている。	献立は、利用者に食べたい物を聞き、作成している。肉や、すき焼きを希望することが多い。毎日、利用者が献立を書いて、ホールの壁に貼っている。朝食は、ご飯とみそ汁は職員が作っている。昼食と夕食、おやつは、職員が調理し、利用者は、野菜を切ったり、味見したり、片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に記入する事で状態を把握し、個別に対応できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の時間や状態を記録している。定期的に声掛けをしたり、必要に応じて排泄介助をしている。	トイレでの排泄を支援している。個々の排泄の記録で習慣を把握し、声掛けしている。夜間、ポータブルトイレを使用していた方も、ナースコールを利用し、トイレに誘導している。夜は、ゆっくり寝たいとの希望をした方とは、本人と話し合い、夜だけおむつを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、乳製品を提供している。野菜を多く摂れるような献立の工夫をしている。排便が困難な利用者については主治医と相談し、薬でコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する日はあらかじめ決めてあるが、その日の利用者の体調や希望、タイミング等を見て変更したり、個々にあった支援を行っている。	入浴は日曜日を休みとしている。利用者は、週2～3回入浴をしている。昼に入浴できなかった場合、夜に入浴することもある。着替えの準備を、自分で行うよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時に休めるよう声掛けをし、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は、記録や申し送りで情報を共有している。服薬は確実に出来るように、他の職員に確認してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般において、できる事を一緒にしている。好きなテレビ番組を録画して見たり、好きな飲み物を飲んで一息ついたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かく、天気の良い日は散歩に出掛けたり、畑に野菜の収穫へ行ったりしている。冬場は外へ出る機会が減り、日常的な外出は出来ていない。	天気の良い日は、散歩に出かけている。夏場は、畑の作業をしている。近所の産直やスーパーに出かけ、買い物している。また、桜・紅葉・白鳥・いちご狩り等ドライブや外食を楽しんでいる。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームめぐまるの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方に電話をかけたり、家族からの電話で話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の調節やテレビの音量等に配慮し、居心地の良い空間づくりをしている。また、利用者に確認しながら、室内の温度調節を行っている。季節感が出るように、装飾物や花を飾ったりしている。	共有の空間は、居間、台所、廊下、トイレ、居室も含め、同じ温度、湿度に調節されている。また、利用者の折り紙細工が飾られ、和やかな雰囲気である。雛まつりには、開所時に、お祝いいただいた7段飾りの雛人形を飾る予定である。独りになりたい時用のスペースも用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座って話をしたり、死角になっている量のスペースを利用して話をしたり、窓から外を眺めたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物を置いていただいたり、本人や家族の写真を飾り、安らいだ気持ちで過ごせるようにしている。必要な物は、本人・家族と相談しながら設置している。	木製のベッドと、多目的棚が備えつけてある。寝具、衣装ケース、小箆等、使い慣れた者を持ち込んでおり、居心地良い雰囲気が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人のできる事を理解し、安全で自立できるように工夫している。		